

地域まちづくり計画

〇〇 地区



1 地区の概況と特色

(1) 地区の概況

※ 地域の歴史、文化、地区の成り立ち、地区の現状を記載してください。

(例)

人口については、10月1日現在で10,859人で全市の2.7%を占めています。市内13地区では3番目に少ない地区になります。

65歳以上の人口の占める割合（高齢化率）は14.3%で△△地区について2番目に低い地区となっています。

〇〇地区の地勢としては、藤沢市の中部に位置し、面積は5.23km²、自然環境に恵まれ、東は××、西は◇◇との間に挟まれ、南北に長い地形となっています。台地部と谷戸部に分けられ、台地上の北東部から南東部にかけて、中世の頃から発達した集落が多く存在し、谷戸部は×○△に源流を持つ○△川を中心に形成され、古くからその富んだ地形を利用して農業を中心に町を形成してきました。

地区のまちづくりは、昭和60年代に入り、西部に「※※※※」構想が展開されたことを契機に大きな変化を遂げました。現在は====大学藤沢キャンパスが開校され、周辺一帯の道路整備など都市基盤整備も進展しています。

(2) 地区の特色

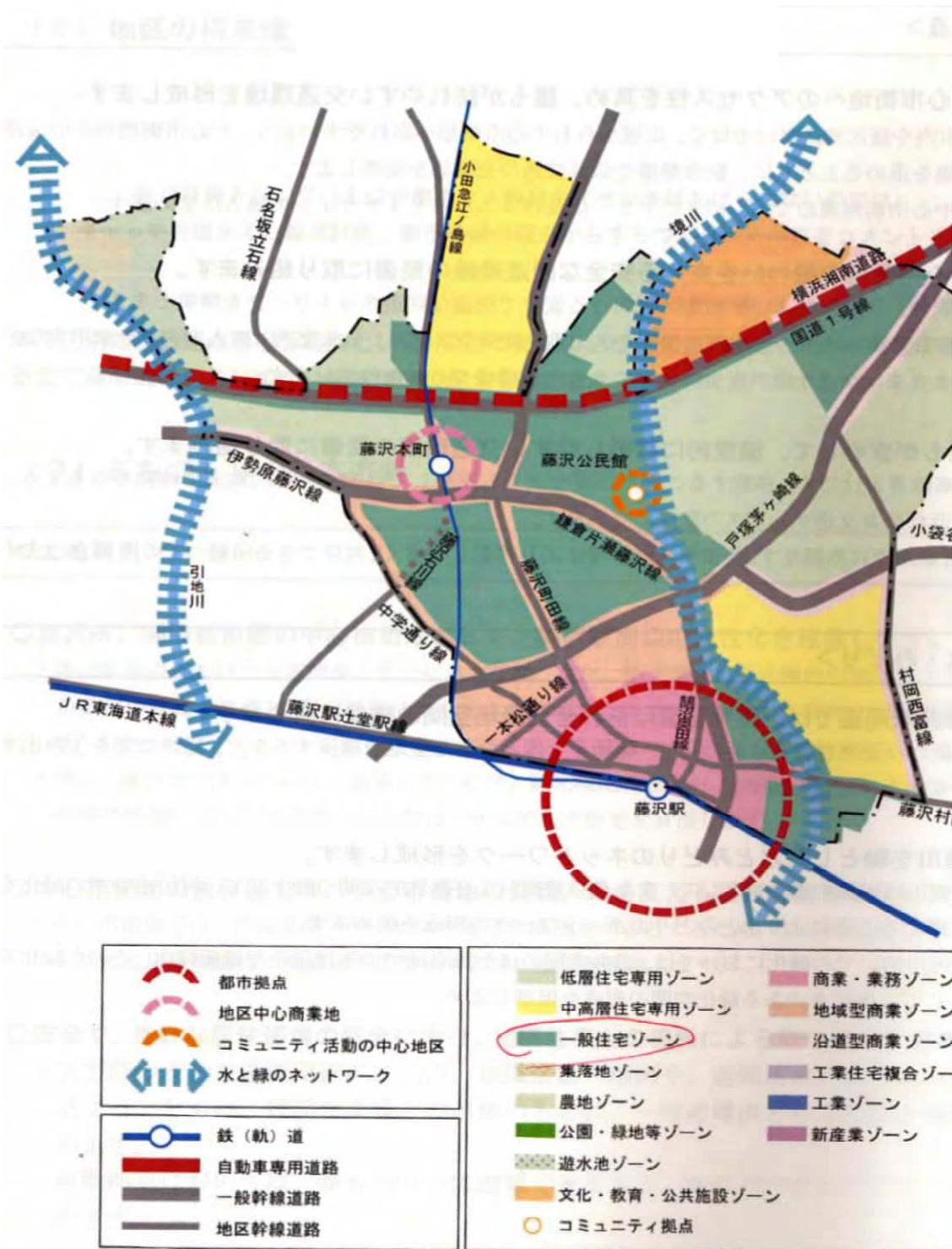
※ 13地区の他の地区とは何が違うのか、地区としてどんな特色があるのかを記載してください。

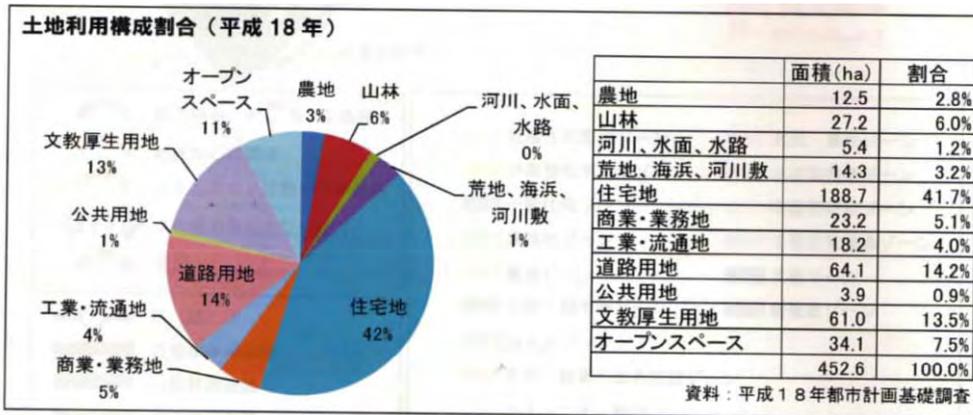
(例)

地区の谷戸部に広がる優良な水田地帯には、用水路が整備され多様な生物が生息し、ビオトープとして親しまれている。農道や○△川護岸には、市民団体が管理するあじさいや彼岸花など四季おりおりの自然が残されている。あじさいや彼岸花の時期には、市内外から大勢の観光客が集まり、散策を楽しむ一方、地域内の畑地で栽培された野菜や切り花などを販売する直売所で、買い物を楽しむ方も多く、地域観光の目玉になっている。

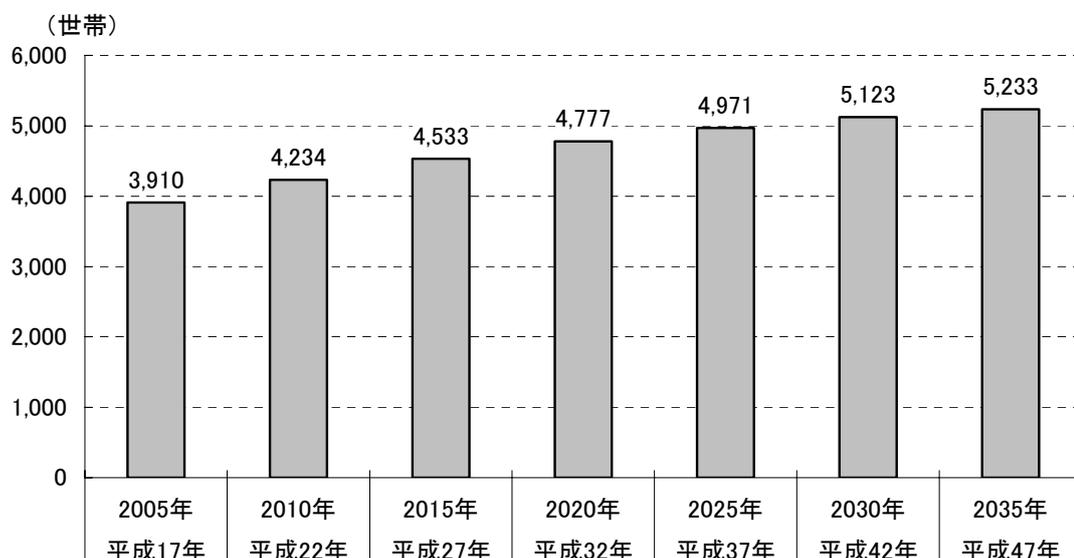
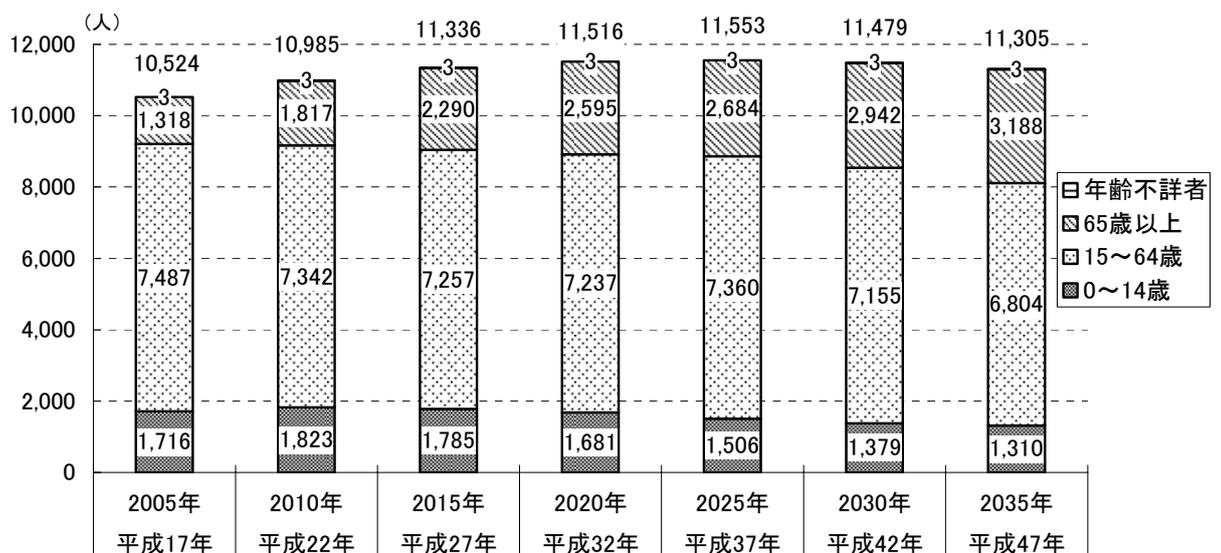
○×祭りは、○×神社で室町後期から続いている地区一番の祭りで、参加する山車の数は市内でも一番多い。毎年、多くの観光客が祭りを見に遠方からも来ている。

(3) ○○地区の土地利用、都市施設、公共施設、人口・高齢化率・世帯数





	平成17年 2005年	平成22年 2010年	平成27年 2015年	平成32年 2020年	平成37年 2025年	平成42年 2030年	平成47年 2035年
人口	10,524	10,985	11,336	11,516	11,553	11,479	11,305
0～14歳	16.3%	16.6%	15.7%	14.6%	13.0%	12.0%	11.6%
15～64歳	71.1%	66.8%	64.0%	62.8%	63.7%	62.3%	60.2%
65歳以上	12.5%	16.5%	20.2%	22.5%	23.2%	25.6%	28.2%
世帯	3,910	4,234	4,533	4,777	4,971	5,123	5,233



(4) ○○地区の地域資源

※写真、イラスト、コメントなど自由表現でお願いします。特にビジュアル的に表現してください。



- ・谷戸に広がる水田地帯
- ・荒廃地を作らないための農業者の活動
- ・みどりがあることによる「やすらぎ」



- ・雨空に美しく咲き誇る「あじさい」
- ・毎年、美しく咲くための市民による管理



- ・秋の空の下、「彼岸花」の散策路
- ・市民団体による散策路の維持保全



- ・若者の集う====大学藤沢キャンパス
- ・地域の知的財産としての大学
- ・地域住民との交流



- ・冬の青空にそびえる富士
- ・いつまでも風景が残せる土地利用

2 地域づくりのテーマ

地域づくりのテーマ

歴史と文化が息づく、湘南藤沢の都心部拠点

概要

義経首洗井戸，遊行寺，藤沢宿など，歴史ある藤沢地区は，現在も藤沢都心部として機能しています。その一方で，歴史や文化の薫りが薄れ，再開発等の影響を受けやすく，また若い世代が定着しないという課題もあります。

時空を超えた歴史探訪の地区として，地区の歴史と文化を再発見し，郷土愛を涵養するとともに，新しい都市基盤にも対応するため，景観形成，文化の醸成，公共施設の統合再整備による地域コミュニティとコミュニティ・ファンドの育成を中心とした地域づくりを推進します。



3 活動の方向性と活動指標，目標値，役割期待値

〔活動の背景〕

- ・ 少子化，高齢化などの影響によって，地域活動の担い手や参加者が少なくなることが予想されます。
- ・ 遊行寺，藤沢宿などの貴重な歴史史跡への興味や関心が薄れつつあります。

〔活動の方向性〕

市民力

- ・ 地区の歴史・文化を学び，地区への愛着を深めます。
- ・ 地区での活動への参加を進めます。

地域力

- ・ 地域経営会議が主体となって，地区での課題収集，課題間の関連性の分析や調整を行うことによって，現状とニーズの把握を行います。
- ・ 市民一人ひとりの地域活動への参加を促すよう，参加できない理由や条件を考慮し，子ども連れ，夜間，短時間等でも参加できるような活動を提供します。

行政力

- ・ 藤沢公民館をはじめ，学校・家庭・地域の連携を深め，地区での活動を支援します。
- ・ NPO等の活動情報を提供し，市民，地域が連携しやすい環境を築きます。

〔参考情報〕

- ・ 地域で活動する地域団体以外の団体等
藤沢宿を語る会，旧モーガン邸を守る会，

5 地域まちづくり計画等の進捗管理計画

6 地域情報

地域独自のイベント情報	4月：○×神社○×祭り
市民ボランティア・NPOによる、まちづくり活動の状況	7月：○△川清掃活動
自治会・町内会による自主活動やイベント	10月：「彼岸花」散策路整備
地域の歴史的・文化的遺産等	○○○○
次世代に伝えたい地域の伝統	*****
その他	安全・安心ステーションの運営

7 地域まちづくり計画図

※ ベースとなる地域の地図は経営企画課から提供いたします・
(例)



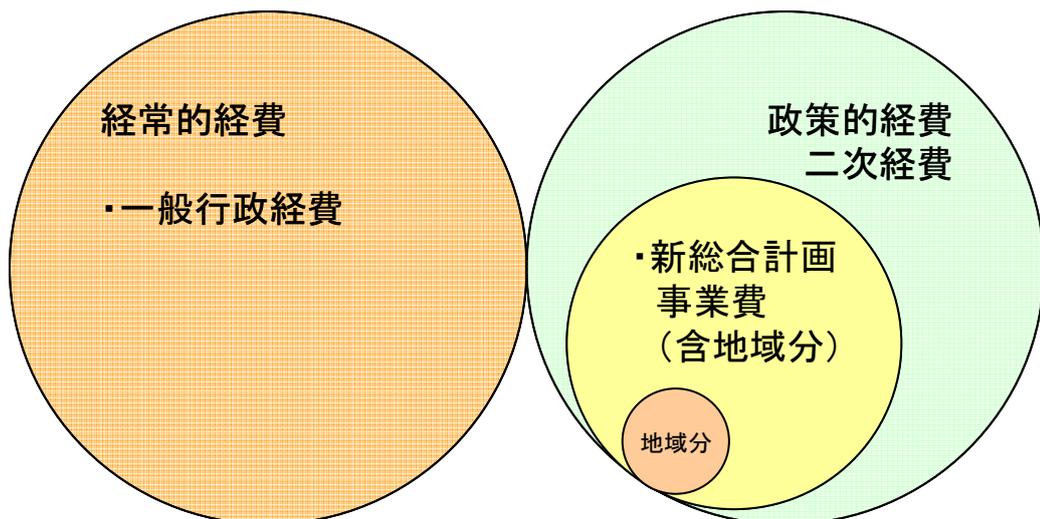
- ・美しい里山があり親しめること
- ・夜道が安全であること
- ・子ども達が安全であること
- ・いつまでも美しい水辺があること

1～10は、
生活実感から「気づき」
が寄せられた場所

中長期財政計画について

1 中長期財政計画の考え方

- (1) 平成34年までの12年間の歳入歳出見込を明らかにします。
- ① 平成25年までの歳出については、現段階で把握できる範囲で実態に即した積算を行います。
 - ② 計画期間全体にわたり、社会保障制度の改正など、不透明な要素が存在するため、積算にあたっては、「現行制度が継続されるものとして積算を行う」など前提条件を設定します。
 - ③ 実施計画事業は今後決定されるため、総合計画事業を含む政策的経費にどの程度の財源が振り向けられるかをもって、中長期財政計画とします。
- (2) 社会情勢、経済情勢等の変動による影響は、年度単位で調整することとします。
- ① 調整にあたっては、「事業仕分け」「事業再構築」等による事業費圧縮や、事業先送りなどで対応することとします。
 - ② 公共施設の更新投資についても年次計画として歳出事業予算に算入します。
 - ③ 歳入歳出の乖離については、歳出事業の年度調整や年次割によって調整し、収支均衡の中長期財政計画とします。



平成23年度予算の構成イメージ

(3) 特定財源の確保

- ① 厳しい財政状況が続くことが想定されることから、国庫支出金、県支出金等の特定財源の確保に努めることとします。
- ② 平成22年度新たに創設された、社会資本整備総合交付金については、関連社会資本整備事業や効果促進事業といった、これまで特定財源対応が困難であった事業での活用が見込まれるため、中長期財政計画の作業と合わせて、基幹事業候補の洗い出しを行います。
- ③ 基幹事業候補にあわせ、全庁調査を行い、各部所管の事業の内一定の「テーマ設定」によって取り込める事業候補の洗い出しを行います。

2 中長期財政計画で考慮すべき新たな視点

(1) 「新しい公共」の視点

- ① 中長期財政計画では、「新しい公共」の視点から、すべての政策的事業の事業主体について検討を行うことを明記します
- ② 公共施設の建て替え等については、公民連携の考えから、事業費の圧縮や平準化について検討を行うことを明記します。
- ③ 「新しい公共」の視点から、現時点で事業費の縮減が可能と判断される政策的経費については、中長期財政計画に反映します。

(2) 「地域分権」の視点

- ① 「市内分権」や「地域内分権」の視点から、事業の担い手について検討することを明記します。
- ② 「地域分権」の視点から、現時点で予算を伴わなくとも実施可能と判断される政策的経費については、中長期財政計画に反映します。

3 社会資本の老朽化・陳腐化

(1) 公共施設の老朽化等の現状

市庁舎、学校、市民センター等の公共施設	7,100 百万円／年
下水道	4,000 百万円／年
橋りょう	1,500 百万円／年
合計	12,600 百万円／年

(藤沢市公民連携のあり方について(提言)2009.11.4)より

- (2) 更新投資に充てられる財源がどの程度見込めるかについて検討します。
- (3) 健全化判断比率である実質公債費比率等については、健全な数値を維持する計画とします。

4 大規模プロジェクト事業の優先順位付け

- (1) 現在進行中の大規模プロジェクトについては、基本計画では意識しつつも、優先順位を付けて実施計画に取り込むものとし、中長期財政計画においても、年度毎の事業費を精査することとします。
- (2) 本格着手時点での事業経費は、中長期財政計画には反映しますが、事業費を保障するものではないことから、次期以降の実施計画において精査します

5 まとめ

- (1) 上記1から4の考え方により、中長期財政計画の策定を行います。
- (2) 中長期財政計画は、平成34年度までの歳入歳出財政計画と、2～4の策定にあたっての考え方を記載します。
- (3) 歳出財政計画では、総合計画事業を含む政策的経費の総額について示します。
- (4) 実施計画事業の具体的事業費については、平成23年度は当初予算編成スケジュール編成過程で、平成24年度～25年度までは「短期財政計画」で位置づけます。

基本構想の副読本について

1 基本的事項

(1) 対象年齢

小学校5年生～中学生

(2) 趣旨

ア 子どもから大人まで，新総合計画基本構想の理念を共有し，将来像の実現に向けた夢とロマンの溢れる藤沢づくりの推進に向けた活動へと結びつける。

イ 基本構想第2章「私たちの基本構想」を判りやすく解説する内容とする。

(3) 配布対象

全戸配布を予定

2 編集方法

イラスト，図表を多用し，わかりやすい構成としたい。

3 編集体制

(1) プロジェクトチームを編成し，事務局が行う。

(2) 総合計画審議会にはプロセスごとに確認をいただく。

4 完成時期

2011年2月（配布については別途）